

文教・警察常任委員会 県内行政調査

1 調査日 平成30年2月9日（金）

2 調査の概要

（1）滋賀県警察本部（大津市打出浜）

本県の刑法犯認知件数は、近年減少傾向にあるものの、県民が不安に感じる事件は後を絶たない。これらの事件の発生時には、迅速、的確な初動捜査を行い、犯人を現場やその周辺で逮捕するとともに、物的証拠を確保することが重要である。

特に、犯人が犯罪現場等に遺留した物や痕跡から得られる鑑識活動においては、事件発生直後の犯罪現場における綿密な証拠資料の収集が重要であることから、機動鑑識班をはじめとする鑑識活動に従事する警察職員の鑑識技術の研究や必要な資機材の整備、開発が求められている。

ついては、滋賀県警察本部の鑑識業務について調査を行い、本委員会における警察行政の議論の参考とした。

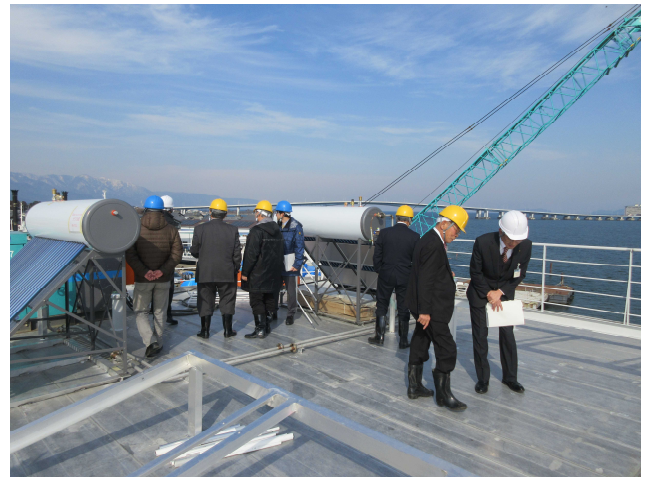


（2）中谷造船株式会社 琵琶湖工場（大津市今堅田1丁目）

びわ湖フローティングスクールは、学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を昭和58年8月から展開している。これまで53万人を超える子どもたちが乗船し、琵琶湖と直接触れ合う環境学習や体験学習を通じて、環境に主体的にかかわる力や人と豊かにかわる力を育んできた。

就航から30年以上経過して、船体等の老朽化が進んだことから、平成28年2月定例会議において新船建造工事の契約締結が可決され、現在、本年4月の就航を目指した準備が進められているところである。

ついては、うみのこ新船の整備状況等について調査し、今後の委員会審議の参考とした。



(3) 滋賀県立図書館（大津市瀬田南大萱町）

昭和 55 年に開館された県立図書館は、利用者のニーズに応じた図書の貸し出しと市町立図書館の設立、運営支援を中心に業務を行ってきた。その結果、市町立図書館の設置率は 100% となり、県民一人当たりの図書の貸出冊数や専任職員の司書有資格者率等が全国上位に占める一方で、県立図書館の利用者に地域性の偏りが認められるとともに、電子書籍の急激な普及、読書人口の減少など、図書館を取り巻く環境が変化している。

県では、現在、「（仮称）これからの滋賀県立図書館のあり方」を検討していることから、県立図書館を訪問し、10 年後を見据えた県立図書館の役割などについて調査した。

